

たくさんの授業に参加させていただき、先生方の実践から貴重なアイデアをいただくことができています。本号は、その紹介です。

1 式の意味を読み取る

【めあて】たすじゅんじょをかえたら、答えはどうなるか調べよう。

2年「計算のくふう」

問題

校でいて、1年生が7人あそんでいます。
そこへ1年生が12人、2年生が8人来ました。
校でいには、みんなで何人いますか。

① 1つのしきに書きましょう。

この問題に $7+20$ と発表した子がいました。

先生方は、この発表にどう対応しますか？

- この子はおそらく「 $7+12+8$ 」は3つの数字があるため、1つの式と思えなかったのでしょう。この子にとっての1つの式は、見慣れた数字2つが並んだ「 $7+20$ 」だったのかもしれませんが。
- ここは、やはり「式の意味を考える」ことが大事だと考えます。みんなに考えさせてもよいかもしれませんが、「〇〇さんの考えは分かる？」
- 20は「後から来た人数」であり「 $12+8$ 」のことであることを読み取るチャンスです。そして、「式は問題を表した言葉」と押さえます。

2 式 ⇔ 図(式と図の対応)について

3年「あまりのあるわり算」【めあて】「答えのたしかめ方を考えよう」

問題

色紙が23まいあります。1人に6まいずつ分けると、何人に分けられて、何まいあまりますか。

あみさんとりくさんは、下のような式を書きました。

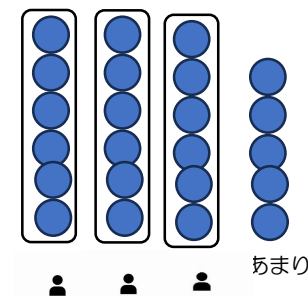
あみ

$$23 \div 6 = 4 \text{あまり} 1$$

りく

$$23 \div 6 = 3 \text{あまり} 5$$

① 右の図を見て、2人の式のどちらが正しいか調べましょう



• 子どもたちは、りくさんが正しいと判断しました。理由で使ったことは、

- ① 答えは6の段を使う(23をこえない)
- ② あまりはわる数より小さくなる。

その後は、あまりが出たら、本時のめあての「たしかめの計算」をします。教科書では、「上のわり算の答えは、下の計算で確かめられます。①を見て、その理由を考えましょう。

先生方はどう指導しますか？

$$23 \div 6 = 3 \text{あまり} 5$$

$$6 \times 3 + 5 = 23$$

- $23 \div 6 = 3$ あまり5
- T 3の意味は何ですか？ 図で見ると・・・
- C 6が3つあること。
- T つまり、6が3つあるので、 $6 \times 3 = 18$
- T 図でいうと、どの部分ですか？ (図とつなぐ)
- T あまりが5だから、 6×3 にどうしますか？
- C たすと23になる。
- T だから、6が3つ、あまりが5つで、 $6 \times 3 + 5$ で確かめられますね。

3 ペア活動

【めあて】整数を2つのなかまに分けることができる。

5年「偶数と奇数、倍数と約数」

子どもたちは、整数を偶数と奇数に分けることができました。その後、ペアで相手に数字を言ってもらって、それが偶数か奇数かを判断するという活動を楽しんで行いました。

活動後、どうい声かけますか？

- T 気づきや発見がありましたか？
- T 問題が出されて、すぐ偶数、奇数を判断している人がいたけど、どうしてできるのですか？

※この発問で、一の位の数字で判断できる言葉を導き出します。

この後、念のために、数字を出して確認したいと思います。